



京大東京オフィス 始動

品川で盛大に開所式



開所式出席者に東京オフィスのねらいを説明する松本紘
京大総長(右端) 11日、品川インターシティA棟

京都大学(松本紘総長)が東京・品川駅前のビルに東京オフィスを設け、開所式が11日夜、盛大に催された。坂田東一文部科学省次官や鷺田清一大阪大学総長、小野元之・日本学術振興会理事長(元文部省次官)ら大学関係者を中心に各界の約200人が出席。松本総長のあいさつの後、乾杯して12日のオープンを祝った。

東京オフィスは、東京での情報収集と発信の拠点としての役割を担う。大学主催の講演会・研究会、学生の就職支援、高校生向け入試説明会、京都と東京を結ぶ双方向講義などを

実施し、京大の首都圏での存在感を強化する。

「京都大学を愛する皆様が出会い、交流を深める場所」(松本総長)でもあり、利用証を発行して卒業生や元教職員にも開かれた場とする。

東京駅前のビルに置いていた従来の東京連絡事務所に比べ、広さは644平方メートルと、ほぼ6倍。見晴らしのよい27階に会議室3室、ラウンジ、パソコン3台を備えたワークスペース、ミニラウンジ、特別応接室を整備。土日も平日同様、午前10時から午後8時まで開館する。